



ほけんだより 9月号

2017 社会福祉法人 雫石保育園保健室

今年の夏は冷夏なのか、猛暑なのか疑問に思う夏ですが、子どもたちはいつもと変わらず元気に過ごしています。例年流行するヘルパンギーナや咽頭結膜熱ではなく、RSウイルスや、おたふくかぜが園で見られます。予防の原則は手洗い・うがい・十分な睡眠です。朝晩の温度差が激しくなるこれからの時期夜は早めに布団に入り、休息がとれるようにしたいですね。

運動会の練習が始まります！

春先よりは体つきも大きくなり、体力もついてきた子どもたちですが、運動会練習が始まるといつもより運動量が増え、疲れが抜けにくくなります。早寝・十分な睡眠、朝ごはんをしっかり食べるのは基本ですが、朝健康観察も必要です。食事の量、顔色、夜眠れずに何度も起きた、機嫌が悪いなどおうちの方がなんかいつもと様子が違うな、気になるなど思うことがありましたら園までお知らせください。

9月の乳幼児健康診査

8日(金) 乳幼児健康診査

20日(水) 1歳6ヶ月児健診

22日(金) 3歳児歯科健診

28日(木) 赤ちゃん相談

22日(金) 3歳6ヶ月児健診

詳しくは広報しずくいしで確認のうえお出かけください。

9月9日は救急の日

救急用品の点検を

- 滅菌ガーゼ
- 三角巾
- 包帯
- ばんそうこう
- 脱脂綿
- 綿棒
- はさみ
- 体温計
- とげ抜き
- ピンセット
- 熱冷まし用シート
- ポリ袋
- ポケットティッシュ
- 消毒薬、外傷用薬品 など

ご家庭に救急箱の用意はありますか？

いざというときにすぐ取り出せるよう、必要な物をそろえておくと安心です。ときどきは中身をチェックして、期限の切れた薬品の入れ替えや、よく使う物の補充などをおこなしましょう。



8月4日(金) ホールにて幼児救急法の講習会がありました。日本赤十字社岩手県支部より盛岡赤十字病院看護師の立花さんを講師に招き、保護者の方々、当園の職員と救急法について学びました。幼児の人形を使い、AEDの使い方、心臓マッサージ、人工呼吸の方法を確認しました。



おたふくかぜ

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)が流行しています。左右、あるいは片方の耳の下がはれ、痛むのが特徴です。園では痛みを訴える子どもがいたら、受診をお願いしています。

【おたふくかぜとは】

- * 左右、または片方だけの耳下腺のはれ、痛み
- * 発熱(しない場合もある)
- * 髄膜炎、難聴の合併症を起こす可能性もある

家庭では

- ・痛みが強いときは、うどんやプリンなど、あまりかまずに飲み込めるものをあげましょう。
- ・熱や痛みがなければ、お風呂に入っても大丈夫です。

おたふくかぜは予防接種で防げる病気です。1歳から予防接種することができます。ただし、自己負担で、病院によって接種金額が違います。感染をしても症状が出ず、免疫ができることもあります。おたふくかぜによる難聴は片側だけに起こることもあり、難聴になっていることに気づくのが遅れることがあります。

おたふくかぜの診断を受けた場合、耳の下の腫れが見られた後5日間を経過し、かつ、全身状態がよくなるまでは登園停止となります。(主治医の指示に従います)

